

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千四百二十三號
 明治廿一年九月十日 月曜日
 舊戊子八月五日 (甲申)
 日出前五時三十分
 日出後五時三十分
 月入後八時三十分
 月入後九時三十分
 (西曆一千八百八十八年)

時事新報

政略一變せざれば政費を省く可からず

明治廿一年度の會計豫算に據れば我國庫の歳出は凡そ八千餘萬圓にして所得税は凡そ百餘萬圓なるを以て歳出の所得税に對する割合は八十と一との比例なれども千八百八十七年より八十八年に至る英吉利、伊太利、普魯西三國の豫算表を視るに英國は歳出八千七百餘萬圓、所得税千四百餘萬圓にして其割合は凡そ六と一との割合に當り伊國は歳出十八億餘圓、所得税二億餘圓、普魯西は凡そ其割合は凡そ九と一、普國は歳出十二億八千餘萬圓、所得税二億餘圓にして其割合は凡そ六と一との割合に當り、比較するに我邦歳出の所得税に對する割合は英國より多きこと七十四倍、伊國より多きこと七十一倍にして現今軍備の擴張に汲々として軍費の莫大なるに世人を驚愕せしむる普國よりも尙ほ多きこと四十七倍の數を見る可し

我邦は於て所得税を實施したるは漸く昨年の七月にして日尙ほ淺く之を取扱ふ官吏も之を納むる人民も共に不慣にして事務未だ整頓に至らざるの事情もあらんれば單に所得税のみを以て詳に人民の所得を卜て其貧富を斷ず可らず且租税は各國の習慣に由て其種類を異にし又其徴收法をも異にするものなれば一概に外國の例を引て我國の事と認するに足らずと雖も日本の所得税を免るる者一一年の所得三百圓以下を限り三百圓の數に達するときは之に課するの法にして一日に八十圓の純益を得れば納税の義務を免れず隨分廣く細く行届さざるものと云ふ可し然るに之を集れば僅に百萬圓に過ぎずとは即ち國民全體に貧乏の事實として視る可きものならん此貧乏を去りて國庫の歳出は八千餘萬圓あり果して國の貧富に相應したる歳出なる可きや疑ふなきを得ざるなり抑も政費省略す可しとは目下殆んど輿論の歸する所にして時事新報紙上にも毎度これを論じ政府の當局者も既に已に知る所にして彼の冗官を沙汰し繁文を省く等の旨の往々發令の文面にも見えたりと雖も實際に其成跡を得ざるは何ぞや之を評して時勢の風潮に流るるものと云はざるを得ず

政府の歳計と雖も吾々家計の私に異なることある可らず人生誰れの財を受しざる者あらんや節儉の要は常に之を忘れずと雖も亦一方には家内の衣食世間の交際等知らず識らずの間に存外の費用と重るが如く政府に於ても常に政費の省略を言ひながら其省略中文明の盛事は次第に新にして次第に舊を棄し一時に意外の支出なれども細々の消費日々に積んで會計の結局に至り更に困難を覺ることある可し殆んど人の罪非ず人情世界の常にも云ふ可きものなれば斯る時勢に當りては我輩は家の主人に忠告して大に家政向の改革を促すが如く政府の當局者にも英斷を勸告せざるを得ず其方法の綱目は他日の論に譲り愛に當局者の爲め謀りて先づ心事の一端を祈るものなり其大槓を言はんは一夜客なく幽窓の下に孤坐し百般的の事を去て精神を獨立の位

置き身外物なし唯日本國あるのみと悟りたれば此日本國を維持して内を治め外に交らんとするには政府なかる可らずとの要則と發明するもならん既に政府を想像し得たり乃ち之を組織するには法律なる可らず兵備なる可らず内治外交の主務なる可らず會計の本局なる可らず是に於てか諸省の要員を想像し得て其省務を理するに如何せんと思ふに先づ長官一名を置て操々の事を執らしめんとすれども其事務繁多にして迎も一名にては足らざるを發明するが故に附屬の吏員を命するもならん斯の如く想像したる處にて眞實國の爲めに政事と名く可き政事を理して毫も政事の要用の外に出るまじしと算中に計算したらば政府は屬する事務の數は何程にして之に任する人の數は幾名にて足る可しとの大槓を得るもならん即ち想像の事務人員にして一度此想像を畫き得て更に眼を轉じて今日官途の實際を調査し想像の政府と實際の政府とを比較しさらば其繁簡の差は如何なる可や實際政府の事務人員を半にし又四分一にするも尙ほ想像政府の簡よ及ばざる可し左れば今の現政府も初めより官吏のみある可きにあらざる當初は政務の捨置き難きものあるが爲めに必要の官を設けたるまじしと云ふも或る月を経るの間に何時しか政務は政事の外に逸し官吏は執務の定員外に増し尙ほ進では官吏あるが爲め却て政務と作るものさへなきに非ず即ち今日の繁文と致したる事情にして十數年來漸次に生じたる其末葉の勢なれば僅に事の末葉を退退左右したればとて殆んど無益なる可きが故に大に爲すまじしと云ふも或る日日本國なる大本を想像し新に必要な政府を造るの覺悟を以て事の根柢より一新の英斷なる可らず政費削減の細論は毎度風聞する所なれども其無効は既に多年の事跡を證して明なれば最早我輩は之に耳を傾くるを好まず故に今後若し當局者にして果して心事を一轉して面目を改るの勇氣あれば祝す可き次第なれども然らざるに於ては我輩は國の爲め他に大に謀る所なきを得ざるなり

○獨逸皇子とピスマーク侯の話 獨逸の三朝に歴事し國家の柱石と仰がるピスマーク侯は獨逸諸皇子の歡心を得るに巧なりしと見え過つる頃侯は新帝ウエルムムと稱し國家の大事を協賛せんとて宮殿に伺候し應接室に扣へて皇帝の出御を待ちし折柄隣室に奏樂始まり小兒の叫聲聞えければ何事の起りしやらんとて皇子の養育室を窺ひしに本年六歳と成り給ひし皇太子ウエルムム自ら樂を奏し皇弟二人に舞踏をなさしめ左も嗜しげな遊び給ひけり皇子はピスマーク侯は室内に入り來るを見て侯の前に進みピスマーク侯は汝と共に舞踏を催すべしとて只管侯の請と促しければピスマーク侯は首を掉りて臣、老とされば舞踏の勞を取らばされ共其股下若し舞踏し給へんと欲せば臣は代りて樂を奏すべしと誓へければ皇太子の喜び云はん方なく樂器を侯に渡し況三人互に手を取りて舞踏を始め

給へり斯る處へ新帝ウエルムムの出御ありピスマーク侯の體裁を見て感動の情に堪へざるに侯は向ひてピスマーク侯は汝が小兒に對する親切を深謝して止ざるなり汝は好時機を見計ひ小兒又汝の秘訣と教ゆべしと物語りたる由以て獨逸皇帝がピスマーク侯に對する感情の一斑を推測するも足るべしと云ふ

○歐洲の平和 露國は歐洲の平和を破るの志ならず天下を征服せんと欲する虎狼の國なりとい世人の一般に稱ふる所なれども熟ら歐洲の現況を案するに露國の舉動は極めて穩かまして夫のバルガリア問題を定むるにも干戈を依りせず正當の手段を用ひんと希望し少しも天下を亂さんとする杯の形跡を認する能はざるなり然るに近來佛、獨逸、伊、佛の不和等は却つて歐洲の平和を害するの傾なきもならずとも外交政略は機密を重んずるものなれば今日温良なる露國も能ある鷹は爪を隠すの壁に漏れず他日風雲に際會して假面を脱し中原の鹿を手よして天下を號令するの活躍を演ずるやも斯す可らざれども露國の現狀より觀察して露國は平和を希ふと云ふも不當の言もあらざるべし七月廿七日の倫敦ハルメルハセット新聞は歐洲平和の維持者は吾人の希望する英、獨、露同盟を容易ならしめざるものにして從來歐洲に行れざる風説を一掃するを得佛、露同盟の噂は排は跡方もなき空言となれり世人往々露國は佛國と連合して歐洲の覇權を掌握せんと計畫せりと云へども露帝は決して佛國に黨する者に非ざるなり日露帝が自國の利益と計り歐洲の平和を維持するに先ちて連合せんとするは獨獨なり獨獨も亦親しく露帝と會合して露帝は佛國と連合するの念なく同帝が獨逸と交情を親密にし共に歐洲の平和を計らんと望むの情は獨逸老帝在世の時と少しも異なるなきを曉りしなり世人々世界の平和を亂す國は露西亞なりと迷信するの今日に當り露國は歐洲平和の維持者なりと公言するも吾人の説を信する者少かるべし雖も歐洲強國中にて去る七年前より今日に至る迄に陸軍費用を減じ露國のみなり露國の勇壯活潑なる將官は常に神肉を生ずるを嘆じ軍備を整へ一舉歐洲を席卷せんよと帝を勸むるものあれども露帝は平和を望み軍費を減少して慾望なきを示し居れば露帝の如き剛勇、忍耐にして經驗に富みたる君主に歐洲諸國の權衡を左右せしむるは平和のふめ希與すべき事共なり世人々注目するハルガリアの問題に付き露國は正當の手段に依頼してフェルナンランド公を斥けんとし獨獨も之に同意を表し同公はハルガリアを退くの傾あり露國はハルガリアの國主を更代せしめ同國を獨立國と認定し獨逸をして獨逸國のハルガリアに干渉するを妨げしめんと計畫せり獨露兩帝の會合も付き最も失望したるは佛國なり佛國は常に露國を後援として獨逸に報する所あらんとせしも今や露國は獨逸と交情を厚し共に歐洲の平和を保つに盡力中なれば佛國の無念思ひ違るべし然れども獨逸若し露國を後援として佛國を滅さんとせば露帝は之を許さざるべし何と云へば露帝は露帝を思ひ且つ佛國の滅亡を以て歐洲の平和を維持するも足ると信せざればなり何れも免れず今日歐洲平和の維持者は露帝なるべしと云ふべしハルメルハセット新聞は露帝政府の機關とありと稱する由れば其言或は爲にする所あるべしと云へり

○佛人日本美術 都府巴里に於ける佛人日本美術の會はるに佛人、露國、獨逸、伊、佛の不和等は却つて歐洲の平和を害するの傾なきもならずとも外交政略は機密を重んずるものなれば今日温良なる露國も能ある鷹は爪を隠すの壁に漏れず他日風雲に際會して假面を脱し中原の鹿を手よして天下を號令するの活躍を演ずるやも斯す可らざれども露國の現狀より觀察して露國は平和を希ふと云ふも不當の言もあらざるべし七月廿七日の倫敦ハルメルハセット新聞は歐洲平和の維持者は吾人の希望する英、獨、露同盟を容易ならしめざるものにして從來歐洲に行れざる風説を一掃するを得佛、露同盟の噂は排は跡方もなき空言となれり世人往々露國は佛國と連合して歐洲の覇權を掌握せんと計畫せりと云へども露帝は決して佛國に黨する者に非ざるなり日露帝が自國の利益と計り歐洲の平和を維持するに先ちて連合せんとするは獨獨なり獨獨も亦親しく露帝と會合して露帝は佛國と連合するの念なく同帝が獨逸と交情を親密にし共に歐洲の平和を計らんと望むの情は獨逸老帝在世の時と少しも異なるなきを曉りしなり世人々世界の平和を亂す國は露西亞なりと迷信するの今日に當り露國は歐洲平和の維持者なりと公言するも吾人の説を信する者少かるべし雖も歐洲強國中にて去る七年前より今日に至る迄に陸軍費用を減じ露國のみなり露國の勇壯活潑なる將官は常に神肉を生ずるを嘆じ軍備を整へ一舉歐洲を席卷せんよと帝を勸むるものあれども露帝は平和を望み軍費を減少して慾望なきを示し居れば露帝の如き剛勇、忍耐にして經驗に富みたる君主に歐洲諸國の權衡を左右せしむるは平和のふめ希與すべき事共なり世人々注目するハルガリアの問題に付き露國は正當の手段に依頼してフェルナンランド公を斥けんとし獨獨も之に同意を表し同公はハルガリアを退くの傾あり露國はハルガリアの國主を更代せしめ同國を獨立國と認定し獨逸をして獨逸國のハルガリアに干渉するを妨げしめんと計畫せり獨露兩帝の會合も付き最も失望したるは佛國なり佛國は常に露國を後援として獨逸に報する所あらんとせしも今や露國は獨逸と交情を厚し共に歐洲の平和を保つに盡力中なれば佛國の無念思ひ違るべし然れども獨逸若し露國を後援として佛國を滅さんとせば露帝は之を許さざるべし何と云へば露帝は露帝を思ひ且つ佛國の滅亡を以て歐洲の平和を維持するも足ると信せざればなり何れも免れず今日歐洲平和の維持者は露帝なるべしと云ふべしハルメルハセット新聞は露帝政府の機關とありと稱する由れば其言或は爲にする所あるべしと云へり

○天氣豫報の 豫報する其時、重なるに隨ひて本報に於て本報の豫報を添補し告げしかば近來露國と云へる噂は露國と云へる噂にもあらずと思ふべきものなれば所は時或度けりさまで半時と云ふも關なり露國と云へる噂も東京の天氣だに快晴若しりとなすものも重なるに隨ひて本報に於て本報の豫報を添補し告げしかば近來露國と云へる噂は露國と云へる噂にもあらずと思ふべきものなれば所は時或度けりさまで半時と云ふも關なり露國と云へる噂も東京の天氣だに快晴若しりとなすものも重なるに隨ひて本報に於て本報の豫報を添補し告げしかば近來露國と云へる噂は露國と云へる噂にもあらずと思ふべきものなれば所は時或度けりさまで半時と云ふも關なり露國と云へる噂も東京の天氣だに快晴若しりとなすものも

○小田原驛水 神奈川縣小田原驛水に於ける水論、起れる水論、報に據れば、水路委員の示諭に、水論の解釋等、平、獲窪村、受けて本論の、散せしが其、内命を受け、戸長の又之、兩氏が雙方の公平の結局、の如何を待、米國西、いでや仔細、て情々、赤がら牛、はせしもの、どて氣も、らぬ愛に、るうらに、一ラスは思